

「今日は」と明るく大きな声で部屋に入ると、「もう来る頃だと思って部屋を暖めておいたよ」と柔らかな顔で迎えてくださる81歳のB子さん。初めて事業団の講習会に出席し、経験談や介護技術等をお聴きしたときは不安になり、尻込みもした私でした。それが活動を始めて、もう5年目に入っています。どうしてこのように長く続けられたのかと自分に問いかけてみると、B子さんの年齢や、脳血管障害の後遺症のため、家の中でも手すりにつかまってゆっくり歩かなければならないという不自由な体に関係なく、前向きに生活をされている姿勢に、自分にないところを沢山持っているんだという思いがあったため続けてこれたのだと思います。

例えば、毎日の食事作りにも新聞の料理記事を切り取ったり、テレビを見てメモしたりと研究に余念が無く、体に良いと聞くとさっと実行してしまいます。また、古い洋服から半てんや巻きスカート等を数日で作成したり、「テレビをじっと見ているのはもったいない。手先を動かすとボケないそうよ。」と言っては折り紙で籠を編んだり、ここに書き尽くせないほど、いろいろなことをなさっています。また命の次の大切にしているお花の数々。「ご自分の体を考えたらこのように殖やさなくても…」と私は初めてお会いした時思いました。しかし活動しているうちに、ああこれがB子さんの生きがいで「お花の世話を私がしなければ」と生活に自分から張りを作り出しておられることを知りました。このような数々の行動、

そして「お年寄りの知恵」に接するたびに私が逆に「がんばらなくちゃ」と励まされたり、教えられたりします。しかし最初から平穩ではなく、はじめのころは家事援助のみの活動に疑問や不満もありました。でも月日が流れるうちにB子さんが「今日はこれが出来て良かったわ！この次は何日？」と私を心待ちにされるような活動をすればB子さんの精神的助けにもなるのでは、と考え方を割り切り、誠心誠意活動することを心がけました。だからでしょうか「娘よりよっぽど優しいよ」と言って下さいます。しかし私は短い時間のお付き合いです。何回同じ話を聴かされても、ゆっくりお相手ができますが、家族となれば無理な時もありましょう。ですから「いざという時はやはり娘さんよ！」とB子さんに話します。

こんな魅力的なB子さんとのかわりを作ってくださった相談員の方々、ケアの仲間たち、そして「貴女はいい勉強をしているわ」と言いながら私の活動日には数々の協力を惜しみなくしてくれる姑に感謝いたします。

今後もB子さんと良いかわりが持続できるよう、いつも心を新たに、そして我々の老後がバラ色になるようその基礎作りに微力ながら活動を続ける所存でございます。

